

令和元年10月21日

【座長（教育長）冒頭コメント】

- 本日は検証報告書案を議論したい。とりまとめの中心となっていた藤岡委員に心から感謝。本日、意見をいただき、報告書の成案としたい。

【事務局による説明】

- 資料1及び資料2（構成や記載内容）について説明

【委員からの意見】

- しっかりまとめていただいた。保護者もこうした問題を身近な問題として捉えていないところがある。いつ子どもが巻き込まれるかわからないという危機感を持ちながら、保護者も教師もお互いに見守ることが重要。その参考になる。（黒岩委員）
- 藤岡委員にはよくまとめていただいた。他県の分析と比較しても格段に内容が深いものとなっている。報告書のままだと活用しにくいので、今後、活用しやすいよう工夫をしてほしい。（高橋委員）
- 非常によくまとまっている。児童・生徒にもわかりやすい形で伝えてほしい。（水本委員）
- 関係乱用型は、教員が自覚せずに陥りやすい状況。学校現場では、こういうリスクの高い状況が続いている。この検証を自分事化し、壁を越える状況に自分がいるということを理解して自分でとどまっていたきたい。  
教員は児童・生徒を助けたいという気持ちを強く持つことがあるが、それが誤った方向に行くことがあることが、この報告書から理解できる。研修の際にもその点を強調してほしい。（関委員）
- 今回詳細な事案を見ることができたことで、非常に興味深い結果になった。今回の関係乱用型では、疑似恋愛関係を持っているかのように思い通りに生徒を動かしていくタイプが印象的だった。一方的に幼い子どもに接触をしているタイプも印象的だった。こうした事案による子どもへの悪影響は大きいので、丁寧に対応していくことが重要。（藤岡委員）
- 最近話題の教員によるいじめの問題も根は似たところがある。勘違いした教師が、校長の目を盗んで、自分たちのいいように力を乱用している。今回は後輩の教師に向けられていたが、児童・生徒への身体暴力に向けられる可能性もある。力の乱用はどこの社会でも起きるが、先生の場合、圧倒的に上の立場にあるので、こうした問題が起きやすい。（藤岡委員）
- 教員は個業意識がある。チーム学校の取組は個業意識を排する取組だと考える。保護者や児童・生徒にも、なぜ先生と2人になってはいけないのか、この報告書から理解してほしい。先生にも理解してもらい、自分を制御してほしい。（原山教育長）